

| 科目 | 週時数 |
|------|------|
| 現代文B | 3 時間 |

| | | |
|----|---|--|
| 目標 | 近代以降のさまざまな文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、国語力の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。 | |
| | 知識技能 | 語句の意味、用法を的確に表現し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てることができる。 |
| | 思考判断表現 | 構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価するとともに、書き手の意図や人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、表現を味わうことができる。また、目的や課題に応じて収集した情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現することができる。 |
| | 主体性協働性多様性 | さまざまな文章に触れることを通して多様な考え方を理解するとともに、自分の考えを深めたり発展させたりすることができる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|--|--|
| 1 学期 | 教科書所収文章の読解 <ul style="list-style-type: none"> ・「環境問題と孤立した個人」 ・「言葉を生きる」 ・「社会の壊れる時」 ・「他者の声 実在の声」 ・「トランジット」 | <ul style="list-style-type: none"> ・評論を読んで、筆者の着眼点や論旨の展開の特色を理解する。 ・長編小説に描かれた場面、作中人物の心理などを的確に読み取る。 |
| 2 学期 | 問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上を図る。 |

| | |
|-------|---|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 |
| 教科書 | 『精選現代文B』(東京書籍) |
| 副教材 | 共通テスト対策現代文完答20(尚文出版) 実践入試漢字演習(尚文出版) 生きる現代文キーワード(駿台文庫) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | 教科書、副教材の理解度を確認する小テストを実施 |

| | | |
|------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|--------------|-----|---|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 的確な授業理解のもと、学習の手引の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる |
| | 60% | 授業内容を的確に理解ことができ、学習の手引の問いを解ける |

※80%=80点を取るための目安。

| 科 目 | 週 時 数 |
|-----|-------|
| 古典B | 3 時間 |

| | | |
|------------|---|--|
| 目 標 | 古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。 | |
| 育 っ て たい 力 | 知識 技能 | 古典に用いられている語句の意味・用法及び文の構造・文章の構成に即して内容を的確に捉え、「読む」能力の一層の充実を目指す。 |
| | 思考 判断 表現 | 人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | 人間の生き方・考え方などについて話し合ったりまとめたりすることで、古典に親しみ、言語文化に対する関心を深め、豊かな自己形成を図る。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|-------------|--|--|
| 1 学 期 | 教科書所収文章の読解 ・『蜻蛉日記』「嘆きつつ一人寝る夜」 ・『紫式部日記』「日本紀の御局」 ・『源氏物語』「車争ひ」 ・『源氏物語玉の小櫛』「もののあはれの論」 ・『孟子』「無恒産無恒心」 ・『莊子』「曳尾於塗中」 ・『韓非子』「侵官之害」 ・「売油翁」・「送薛存義序」・「漁父辞」 ・『史記』「韓信伝」 | (古文) ・本文を正確に読み、内容を的確にまとめる。 ・作品の背景を理解し、資料を適切に利用して内容を理解する。 (漢文) ・語句や句法に注意しながら内容を理解したうえで、作品について他者に説明できるようにする。 |
| 2 学 期 | 教科書所収内容のまとめ ・『和歌の修辞』 ・『紛らわしい語の識別』 ・『漢文句法・重要語のまとめ』 ・適宜、問題演習をおこなう。 | (古文) ・作品の背景を理解し、資料を適切に利用して内容を理解する。 (漢文) ・語句や句法に注意しながら文法内容を理解し、他者に説明できるようにする。 |

| | |
|-------|--|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 |
| 教科書 | 『精選古典B 古文編』(東京書籍) 『精選古典B 漢文編』(東京書籍) |
| 副教材 | 改訂版 流れと演習 新日本文学史(京都書房) これからの古典文法(尚文出版) 漢文学習必携 二訂版(京都書房) 入試対策ベストセレクション古文単語325(尚文出版) 共通テスト対策古典完答24(尚文出版) 錬成古典・大学共通テスト対策版(尚文出版) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | 古文速読トレーニング・漢文句法の小テストを毎週適宜実施 |

| | | |
|------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|------------------|-----|---|
| 知識・技能分野 の到達目安 | 80% | 的確な授業理解のもと、学習の手引の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる |
| | 60% | 授業内容を的確に理解することができ、学習の手引の問いを解ける |

※80%=80点を取るための目安。

| 科 目 | 週 時 数 |
|-----------|-------|
| 国語探究①(設定) | 3 時間 |

| | | |
|-----|---|---|
| 目 標 | 文章の内容を的確に理解し、問いに対する自分の解答を根拠に基づいて論理的に表現することができる。 | |
| | 知識 技能 | さまざまなテーマについて考えることで、社会で何が起きているかを知る。 文章表現を学び、自分の考えを正確に伝えるための書き方を身につける。 |
| | 思考 判断 表現 | 論理的に問題を捉え的確に表現するとともに、新たな考えを創造する力を高める。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | 他の人の意見に触れることを通して多様な考え方を理解するとともに、自分の価値観に気づくことができる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|---------|---|---|
| 1 学期 | 基本的な知識を活用して発展的な文章に触れ、文章の要約の仕方や設問へのアプローチの仕方を習得する。 | 課題文の的確な読み取りができているかを確認する。 要約文を的確かつ迅速に完成させることができる。 他テキストとの比較により、扱われている内容を俯瞰的に捉えることができる。 |
| 2 学期 | 基本的な知識を活用して発展的な文章に触れ、文章の要約の仕方を再確認しつつ、解答の精度の向上に向けた取り組みを実践する。 | 発展的な内容の文章を読み、記述解答の仕上げ方を確認する。 答案の他者採点をしながら、解答に必要なポイントを確認し、自らの解答のよりよい作成に活かすことができる。 |

| | |
|-------|--|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 |
| 主たる教材 | 『国語 新総合演習3』(尚文出版) 『国語 新総合演習4』(尚文出版) 自作プリント |
| 副教材 | 改訂版 流れと演習 新日本文学史(京都書房) 新訂国語便覧 第六版(京都書房) 生きる現代文キーワード(駿台文庫) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | 語句テキストの内容を確認する小テストを都度実施 |

| | | |
|----------|-------|--|
| 到達 目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|------------------|-----|-------------------------------------|
| 知識・技能分野 の到達目安 | 80% | 素材文から新たに学んだ視点や読解語を日常生活に応用して使うことができる |
| | 60% | 『国語 新総合演習』の問いの意図を理解し、答案を作ることができる |

※80%=80点を取るための目安。

| 科 目 | 週 時 数 |
|------|-------|
| 世界史B | 3 時間 |

| | | |
|-----|---|---|
| 目 標 | 世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。 | |
| | 知識技能 | 世界史の諸事象についての基本的知識を理解する。またそれぞれの事象を関連付けて考察する技能を身に付ける。 |
| | 思考判断表現 | 世界史の諸事象から課題を見出し、それを多角的に考察する。 |
| | 主体性協働性多様性 | 世界史を通して国際社会の諸事象に対する関心や課題意識を高め、それを意欲的に考察するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を持ち責任を果たそうとする。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|--|--|
| 1 学期 | 第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 第11章 欧米における近代国民国家の発展 第12章 アジア諸地域の動揺 第13章 帝国主義とアジアの民族運動 | <ul style="list-style-type: none"> 旧体制の矛盾と、近代市民社会が形成され、国民国家の原則が形成され、ドイツ・イタリアなどで国民国家形成が促されたことを理解する。 アジアの植民地化と、列強諸国の世界分割がどのように行われたかを理解する。 |
| 2 学期 | 第14章 二つの世界大戦 第15章 冷戦と第三世界の成立 第16章 現在の世界 序章～第16章の総復習(問題演習) | <ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦と社会主義国家の誕生により、それまでの国際秩序が大きく変動したことを理解する。 二つの世界大戦の総力戦としての様相、社会主義・全体主義の台頭に着目し、大衆社会の出現について理解する。 米ソ冷戦とアジア・アフリカ諸国の台頭により自由主義圏、社会主義圏、第三勢力の各陣営の結束強化と相互の対立を軸に、冷戦期の世界の動向を理解する。 |

| | |
|-------|---|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループワーク |
| 教科書 | 『詳説世界史B』(山川出版社) |
| 副教材 | 新世界史要点ノート標準編(啓隆社) アカデミア世界史(浜島書店) 進研WIN STEP世界史B(ラーンス) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(復習テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | ICTを随時活用する |

| | | |
|------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 単元毎の振り返りを確実にを行い、各テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な教材を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|--------------|-----|-------------------------|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 教科書の重要語句の関連性を系統立てて理解できる |
| | 60% | 教科書の重要語句を理解できる |

※80%=80点を取るための目安。

| 科 目 | 週 時 数 |
|------|-------|
| 日本史B | 3 時間 |

| | | |
|-----|--|--|
| 目 標 | 我が国の歴史の展開を世界史的視野に立って総合的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。 | |
| | 知識技能 | 我が国の歴史の展開についての基本的な事項を世界史的視野に立ち、我が国を取り巻く国際環境と関連付けて理解する。 |
| | 思考判断表現 | 我が国の歴史の展開から課題を見つけ、多面的・多角的に考察するとともに国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。 |
| | 主体性協働性多様性 | 我が国の歴史の展開に対する関心を高め、主体的に追究することを通して、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|---|--|
| 1 学期 | 8章 幕藩体制の動揺 9章 近代国家の成立 10章 二つの世界大戦とアジア | <ul style="list-style-type: none"> 幕藩体制の動揺の要因を理解し、政局の動きに注目し、江戸幕府の滅亡にいたるまでの流れを考察すると同時に、民衆の動きにも着目する。 維新期の近代化について、諸改革の内容を理解するとともに、立憲体制の確立に努めた国内外の情勢にも着目する。 日本が帝国主義列強の一員として国際政局に登場した概要と、二度の世界大戦へと進む状況を理解する。 |
| 2 学期 | 11章 占領下の日本 12章 高度成長の時代 13章 激動する世界と日本 | <ul style="list-style-type: none"> 戦後占領期の民主化政策と独立回復の動きを考える。 独立後、経済・文化国家としての道を歩み、1960年代に高度経済成長を達成する日本の復興を世界的な視野から理解する。 経済大国として成長する日本の様子と、冷戦終結以降の新しい情勢のもとで流動する現代の情勢を分析する。 |

| | |
|-------|---|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 ペア学習 ICTを活用した学習 |
| 教科書 | 『詳説日本史B 改訂版(山川出版社)』 |
| 副教材 | 詳説日本史図録 第8版(山川出版社) 時代と流れで覚える! 日本史B用語(文英堂) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|--------------|-----|---|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 時期の特色, 教科書の語句, 事項の因果関係, 史資料を完全理解し, 的確に説明できる |
| | 60% | 時期の特色, 教科書の語句, 事項の因果関係, 史資料の理解し, 説明できる |

※80%=80点を取るための目安。

| 科 目 | 週 時 数 |
|-----|-------|
| 地理B | 3 時間 |

| | | |
|-----|---|---|
| 目 標 | 現代世界の人口、都市・村落、人種・民族などに関する地理的事象の分布やその要因などについて体系的に考察するとともに、それらの学習で習得した知識、概念や地理的技能を活用して、世界諸地域の地域的特色を歴史的背景に留意して多面的・多角的に考察し、地理的な見方や考え方を培う。 | |
| | 知識 技能 | 現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身につける。また、諸資料を通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身につける。 |
| | 思考 判断 表現 | 現代世界の地理的事象から課題を見い出し、それを系統地理的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | 現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|---------|---|---|
| 1 学期 | 第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 3章 人口、村落・都市 4章 生活文化、民族・宗教 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界の村落・都市の成立要因・分類を学ぶ。 ・都市の機能が経済の発展とともに変化したことを学び、どのような影響を周囲に与えるか理解する。 ・環境問題とエネルギー問題との間には関連の深い問題も多く、地域ごとに複雑な状況であることを認識し、解決には国際協力が必要で緊急性もあることを理解する。 ・世界的視野・地域的視野から種々の民族・領土問題があることを学び、背景・現状の共通性と相違性について理解する。 |
| 2 学期 | 第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域 3章 現代世界と日本 | <ul style="list-style-type: none"> ・東アジアを、位置・自然・農牧業・資源・貿易等を通して学び、日本との密接な関係をもとに世界とのつながりを考察する。 ・ヨーロッパを位置・自然・農牧業・資源・貿易等を通して学び、EUの拡大・発展が周辺地域に与える影響を考察する。 ・北アメリカを、位置・自然・農牧業・資源・貿易等を通して学び、世界に大きな影響を与える農牧業・工業の分布や成立背景について学び、多角的に考察する。 |

| | |
|-------|----------------------------------|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 ICTを活用した学習 |
| 教科書 | 『新詳地理B』(帝国書院) 『地歴高等地図』(帝国書院) |
| 副教材 | 最新地理図表 GEO(第一学習社) 新 地理要点ノート(啓隆社) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | 調べ学習を取り入れる |

| | | |
|----------|-------|--|
| 到達 目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|------------------|-----|------------------------------------|
| 知識・技能分野 の到達目安 | 80% | 新 地理要点ノートにおける重要語句の完全理解と付随する図表問題を理解 |
| | 60% | 新 地理要点ノートにおける重要語句の完全理解 |

※80%=80点を取るための目安。

| 科 目 | 週 時 数 |
|------------|-------|
| 世界史探究②(設定) | 2 時間 |

| | | |
|-----|---|---|
| 目 標 | 世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。 | |
| | 知識 技能 | 各世紀ごとの世界史の諸事象の基本的知識を理解している前提に立ち、それぞれの事象をより深く関連付けて考察する技能を身につける。 |
| | 思考 判断 表現 | 世界史の諸事象から課題を見出し、それを多角的に深く考察する。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | 世界史を通して国際社会の諸事象に対する関心や課題意識を高め、それを意欲的に深く考察するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を持ち責任を果たそうとする。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|-------------|---|--|
| 1 学 期 | ①古代の世界 ②前2世紀の世界 ③後2世紀の世界 ④8世紀の世界 ⑤13世紀の世界 | <ul style="list-style-type: none"> ・諸地域で成立した文明の共通点と相違点を、演習を通して理解する。 ・ユーラシア各地で栄えた諸王国が、3つの交易路を通して交流したことを、演習を通して理解する。 ・モンゴル帝国の発展が東西交流を促進させる契機となったことを、演習を通して理解する。 |
| 2 学 期 | ⑥16世紀の世界 ⑦18世紀の世界 ⑧19世紀の世界 ⑨20世紀の世界 | <ul style="list-style-type: none"> ・大航海時代の到来により、西欧・イスラーム圏・東アジア諸地域が相互に関係を深めることになった過程を、演習を通して理解する。 ・産業革命・帝国主義時代・2つの世界大戦を経て諸地域が緊密に連携するに至る過程を、各地域の特徴の把握とともに演習を通して理解する。 |

| | |
|-------|---|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 ペアワーク |
| 主たる教材 | 演習プリント(自主教材) |
| 副教材 | 新世界史要点ノート標準編(啓隆社) アカデミア世界史(浜島書店) 進研WIN STEP世界史B(ラーンズ) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(復習テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | ICTを活用した研究発表を行う |

| | | |
|--------------|-------|--|
| 到達 目 標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 単元毎の振り返りを確実にを行い、各テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な教材を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|------------------|-----|----------------------------|
| 知識・技能分野 の到達目安 | 80% | 演習プリントの重要語句の関連性を系統立てて理解できる |
| | 60% | 演習プリントの重要語句を理解できる |

※80%=80点を取るための目安。

| 科 目 | 週 時 数 |
|------------|-------|
| 日本史探究②(設定) | 2 時間 |

| | | |
|-------------------|--|---|
| 目 標 | 我が国の文化の展開を各時代の社会的・政治的背景をふまえて考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深める。また、我が国の近代以降の歩みを考察し、現代社会が抱える諸問題とのつながりや関連性に着目して、歴史的思考力を養う。 | |
| 育 っ て たい 力 | 知識 技能 | 我が国の各時代の文化の成立過程および特徴について、史資料を用い、時代背景や我が国を取り巻く国際環境などを互いに比較しながら理解する。 我が国の近代以降の歩みと現代社会の諸問題について、史資料を用いながら理解を深める。 |
| | 思考 判断 表現 | 我が国の各時代の文化の成立過程や特徴について、国内の情勢や対外関係を踏まえながら多面的・多角的に考察する。 現在、我が国を取り巻く諸問題について、我が国の近代以降の歩みを学ぶことを通して、その背景や関連を考察する。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | 我が国の文化や伝統、現代の諸問題に対する関心を高め、主体的に追究することを通して、国際社会に生きる日本人としての責任を果たそうとする。 |

| 時期 | 学 習 内 容 | ね ら い ・ 目 標 |
|----------|---|--|
| 1 学 期 | 1. 近世の文化 2. 近代の文化 3. 原始～中世の史資料読解 | <ul style="list-style-type: none"> ・各時代の文化の特徴を、その背景となる社会および政治の状況や対外関係と関連付けて学ぶことで深く理解する。 ・各時代の文化の特徴を相互に比較し、共通点や違いを考えながら学ぶことで理解を深める。 ・原始～中世に関して、史資料の有効的な活用により、読解力と歴史的思考力を高める。 |
| 2 学 期 | 4. 現代の政治・外交 5. 現代の社会経済・文化 6. 近世～近現代の史資料読解 | <ul style="list-style-type: none"> ・戦後史の学習を深めることで、現代社会につながる課題とその解決の方向について考える。 ・近世～近現代に関して、史資料の有効的な活用により、読解力と歴史的思考力を高める。 |

| | |
|--------------|---|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 ペア学習 ICTを活用した学習 |
| 主たる教材 | 自作教材 |
| 副教材 | 詳説日本史図録 第8版(山川出版社) 進研WINSTEP 日本史B 三訂版(ラーンズ) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(成果物、小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|-------------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|--------------------------|-----|--|
| 知識・技能分野 の到達目安 | 80% | 史資料を読み取り、内容を完全に理解できる。歴史的事象の背景・因果関係を考察し適切に説明できる |
| | 60% | 史資料を読み取り、内容を理解できる。歴史的事象の背景・因果関係を正しく理解できる |

※80%=80点を取るための目安。

| 科 目 | 週 時 数 |
|-----------|-------|
| 地理探究②(設定) | 2 時間 |

| | | |
|-----|--|--|
| 目 標 | 様々な地理的事象や要因などについてより深く体系的に考察するとともに、今までの学習で習得した知識、概念や地理的技能を活用して、世界諸地域の地域的特色を多面的・多角的に考察する。また、現代世界の地理的事象について自分の考えを他者と共有し、自分の考えを表明する力を養う。 | |
| | 知識 技能 | 現代世界の地理的事象についての事柄や追究の方法を理解し、今まで学習してきた知識をより深める。また、諸資料を通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身につける。 |
| | 思考 判断 表現 | 現代世界の地理的事象から課題を見いだし、それを系統地理的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | 現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|---------|---|---|
| 1 学期 | 1 自然災害と防災 2 環境問題 3 エネルギー問題 4 貿易, 情報化社会 | <ul style="list-style-type: none"> 世界で発生した自然災害を学び、どのように災害と向き合うかを学ぶ。 環境問題とエネルギー問題の間には関連の深い問題も多く、地域ごとに複雑な状況であることを認識し、解決には国際協力が必要で緊急性もあることを理解する。 情報化社会における、先進国と発展途上国の格差、貿易問題などについて学ぶ。 |
| 2 学期 | 5 人口問題 6 紛争・領土問題 7 世界各国と日本の繋がり | <ul style="list-style-type: none"> 先進国、途上国における人口問題をそれぞれ学び、問題の背景にある貧困や飢餓問題などについても触れる。 世界的視野・地域的視野から種々の民族・領土問題があることを学び、背景・現状の共通性と相違性について理解する。 世界の国々と日本の繋がりについて学ぶ。 |

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 授業の形態 | 個人学習, グループ学習 ICTを活用した学習 |
| 主たる教材 | 自作プリント |
| 副教材 | 最新地理図表 GEO(第一学習社) 新 地理要点ノート(啓隆社) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | 調べ学習を取り入れる |

| | | |
|----------|-------|--|
| 到達 目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|------------------|-----|------------------------------------|
| 知識・技能分野 の到達目安 | 80% | 新 地理要点ノートにおける重要語句の完全理解と付随する図表問題を理解 |
| | 60% | 新 地理要点ノートにおける重要語句の完全理解 |

※80%=80点を取るための目安。

| 科 目 | 週 時 数 |
|-------|-------|
| 政治・経済 | 3 時間 |

| | | |
|-----------------|--|--|
| 目 標 | 現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。 | |
| 育 っ たい 力 | 知識 技能 | 社会のあり方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、社会のあり方に関わる情報を適切かつ効果的に調べられる。 |
| | 思考 判断 表現 | 政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を理解するとともに、身につけた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断することができる。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、より積極的な役割を果たすことができる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|---|--|
| 1 学期 | 第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法 第2章 現代の国際政治 | <ul style="list-style-type: none"> 個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立や協調などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。 民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治のあり方との関連について多面的・多角的に考察し、表現できる。 国際社会の変遷、人権、国家主権、領土等に関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、わが国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。 |
| 2 学期 | 第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質 第2章 国民経済と国際経済 第3編 現代社会の諸課題 | <ul style="list-style-type: none"> 経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きとしくみ及び租税などの意義、金融の働きとしくみについて、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。 経済活動と福祉の向上との関連について、多面的・多角的に考察し、表現できる。 貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。 |

| | |
|--------------|---------------------------------|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 ペア学習 |
| 教科書 | 『政治・経済』(数研出版) |
| 副教材 | 政治・経済資料集(清水書院) 政治・経済演習ノート(数研) |
| 評価の方法 | 定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価 |
| 備考 | ICTの活用、アクティブラーニングを取り入れる |

| | | |
|-------------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|---------------------|-----|-------------------------------|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 『サポートノート政治・経済』 演習問題・発展問題の完全理解 |
| | 60% | 『サポートノート政治・経済』 確認問題の完全理解 |

※80%=80点を取るための目安。

| 科 目 | 週 時 数 |
|-----|-------|
| 体育 | 3 時間 |

| | | |
|-----|--|---|
| 目 標 | 各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。 | |
| | 知識技能 | 社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基本的な事項を理解し、知識を身につける。また、自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の技能を高める。 |
| | 思考判断表現 | 自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫する。 |
| | 主体性協働性多様性 | 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら計画的に運動をしようとする。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|--|--|
| 1 学期 | 体づくり運動 *組体操、運動会の練習 体育理論 テニス バレーボール ソフトボール | <ul style="list-style-type: none"> ・運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流する。 ・様々な体の使い方を学び、各自で種目を選択し互いに協力・補助し、連続技に挑戦する。 ・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開する。 ・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。 |
| 2 学期 | 体育理論 バスケットボール サッカー 卓球 バドミントン | <ul style="list-style-type: none"> ・運動技術と運動技能の違いを知り、それぞれの運動種目に応じた運動技術について理解する。 ・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋める動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。 ・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。 |

| | |
|-------|-----------------------------|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 |
| 教科書 | 『高等学校保健体育』(第一学習社) |
| 副教材 | ステップアップ高校スポーツ2000(大修館) |
| 評価の方法 | 実技試験と定期試験(種目の歴史とルール)による総合評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|------|--------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 実技では規定の技能を正確に行う。筆記試験はルールや歴史を理解する。 |
| | ②実技テスト | 競技の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 規定の服装で授業を受けること |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| 科 目 | 週 時 数 |
|--------------|-------|
| コミュニケーション英語Ⅲ | 5 時間 |

| | | |
|-----------------|---|--|
| 目 標 | 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を実際の場面で運用できるようにする。 全過程を通じて、大学が求める英語運用能力を伸ばす。 | |
| 育 っ たい 力 | 知識 技能 | まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から情報を得て、整理することができる。 日常生活についてのまとまりのある内容をよく理解することができる。 専門的内容を含む話や会話を聞いて、主題と詳細情報を区別して理解することができる。 |
| | 思考 判断 表現 | 書き手の意図を理解して、自分の意見と比較しながら批判的に読むことができる。 日常生活の話題について、構成を意識して文章を書くことができる。 自分の意見や感想を論理的に整理し、説得力のある文章を書くことができる。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | 日常生活の出来事を説明したり、用件を伝えたりすることを、簡潔かつ適切に行うことができる。 専門的内容を含む話題について、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。 話し合いの場ではリーダーとして意見の集約をすることができる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|---|---|
| 1 学期 | English Communication III ・L1 Caffeine: The World's Favorite Drug ・L2 Blood Is Blood ・L3 Australia and its Creatures ・L4 The \$100,000 Salt and Pepper Shaker ・L5 Bilingual Effects in the Brain ・L6 Communication without Words ・L7 Political Correctness | 以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 <健康・科学> <人権> <環境・生物> <人生・生き方> <脳科学> <コミュニケーション> <社会問題> |
| 2 学期 | ・L8 Animal Math ・L9 The Story of My Life ・L10 Extinction of Languages ・L11 Learning a First Culture ・L12 Light Pollution ・既習事項の確認と発展的演習 | 以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 <生物・科学> <人生・生き方> <言語> <社会・文化> <環境・科学> 演習を通し、総合的な力を磨く。 |

| | |
|--------------|--|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 ペア学習 |
| 教科書 | 『Revised Landmark English Communication III』(啓林館) |
| 副教材 | Revised Landmark English Communication III 予習ノート(啓林館) Vision Quest総合英語(啓林館) 速読英単語必修編(Z会) 大学入試完全攻略講座2 英語長文問題演習【完成編】(桐原書店) |
| 評価の方法 | 定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|-------------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|---------------------|-----|---|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 予習ノートの全ページの問題と答え、教科書の課末問題や小テスト問題を全て理解している |
| | 60% | 予習ノートの全ページの問題と答えを理解している |

※80%=80点を取るための目安。

| 科目 | 週時数 |
|-------|------|
| 英語表現Ⅱ | 3 時間 |

| | | |
|----|--|--|
| 目標 | 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。 | |
| | 知識技能 | まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から必要な情報を得ることができる。 筆者の意図などを正確に理解して、文章を批判的に読むことができる。 日常生活についての情報・説明を聞き取ったり、まとまりのある内容を理解することができる。 複数の話題が含まれた話や会話を聞いて、主題と詳細情報を区別しながら理解できる。 |
| | 思考判断表現 | 日常生活の話題についてある程度まとまりのある文章を書くことができる。 効果的な事例を取り入れながら、自分の意見や感想を論理的に整理し、複数の段落で書くことができる。 |
| | 主体性協働性多様性 | 日常生活の出来事について説明したり、用件を伝えたりすることができる。 英語のネイティブスピーカーの先生と、本や映画など馴染みのある話題であれば、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|---|--|
| 1 学期 | Vision Quest English Expression II Part 3 ・プレゼンテーション ・ディスカッション ・ディベート | 以下についての基本ルールを理解し、活用できるようになる。 ・プレゼンテーション ・ディスカッション ・ディベート |
| 2 学期 | Vision Quest English Expression II ・Part 1 ～ Part 3 | 演習を通し、総合的な力を磨く。 ・既習事項の確認と発展的演習を行う。 ・様々なテーマについて、自身の考えをまとめたり、論理的に表現できるようになる。 |

| | |
|-------|---|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 ペア学習 |
| 教科書 | 『Vision Quest English Expression II』(啓林館) |
| 副教材 | Vision Quest English Expression II WORKBOOK(啓林館) Vision Quest 総合英語 2nd Edition(啓林館) スランブル英文法・語法4th Edition(旺文社) 三訂版 入試必携英作文 Write to the Point(数研出版) 2023進研[大学入試共通テスト]直前演習実力養成 英語(筆記) 40minutes×14(ラーズ) |
| 評価の方法 | 定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|--------------|-----|--|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 教科書のExercises・WORKBOOKのPractice問題の完全理解 |
| | 60% | 教科書のExercises問題をすべて解くことができる |

※80%=80点を取るための目安。

| 科 目 | 週 時 数 |
|-----------|-------|
| 英語探究②(設定) | 2 時間 |

| | | |
|-------------------|---|--|
| 目 標 | 様々な場面設定の中で、学んだことを積極的に活用するにはどうすればよいのかを学ぶ。英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。言語の使用場面に応じた適切な表現を選択し、英語を通して自己表現する能力の向上を図る。英語理解の根幹としての発音、リスニング、文法の発展的内容について研究する。国際社会に通用する英語運用能力を養う。 | |
| 育 っ て たい 力 | 知識 技能 | 表現の基礎となる文法事項を理解し、さまざまな話題やテーマについての英語を読んだり聞いたりして、情報や考えなどを理解することができる。また英語の学習を通して、言語や文化についての知識を身につけ、さまざまなテーマについての理解を深め、自らの考えを発信することができる。 |
| | 思考 判断 表現 | さまざまな話題やテーマについて、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして、適切に表現することができる。問いかけに対し即時応答することができる。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | 日常生活の出来事を説明したり、用件を伝えたりすることを、簡潔かつ適切に行うことができる。専門的内容を含む話題について、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。話し合いの場ではリーダーとして意見の集約をすることができる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|------|---|---|
| 1 学期 | [英語総合学習 UNITE Stage4 四訂版] ・Lesson1 健康・医療 ・Lesson2 メール・取引交換 ・Lesson3 社会・変化 ・Lesson4 心理・感情 ・Lesson5 案内文・教育 ・Lesson6 人物 ・Lesson7 言語・コミュニケーション [リスニング問題集 All Ears vol.3] ・Lesson1 Describing Pictures ・Lesson2 Appearances ・Lesson3 Situational Dialogues ・Lesson4 Troubles ・Lesson5 Health ・Lesson6 Map ・Lesson7 Responses ・Lesson8 Family Conversations ・Lesson10 Talking on the Radio | ・様々な場面設定の中で、授業で学んだ各項目を含む表現を実際に聞き、考え、話し、書く経験をする。 ・自身の英語を通じたコミュニケーション能力を客観的に把握し、更なる向上の方法を研究する。 ・文章中の考えを論理的にまとめる。 ・相手の考えを理解し、同意、あるいは反論などの意見を、筋道を立てて話すことができるようにする。 |
| 2 学期 | [英語総合学習 UNITE Stage4 四訂版] ・Lesson8 案内文・状態 ・Lesson9 環境 ・Lesson10 グラフ・活動 ・Lesson11 科学・テクノロジー ・Lesson12 グラフ・現代社会 ・Lesson13 生活・生物 ・Lesson14 社会・産業 ・Optional Lesson 環境 [リスニング問題集 All Ears vol.3] ・Lesson11 Advertisement ・Lesson12 Traveling ・Lesson13 Reading the Table ・Lesson14 Interview ・Lesson15 Reading the Graph ・Lesson16 Recipes ・Lesson17 Speech ・Lesson18 Biography ・Lesson19 Discussion ・Lesson20 Lecture | ・様々な場面設定の中で、授業で学んだ各項目を含む表現を実際に聞き、考え、話し、書く経験をする。 ・自身の英語を通じたコミュニケーション能力を客観的に把握し、更なる向上の方法を研究する。 ・グループディスカッションの中で自分の考えを他者に的確に伝えることができる。 |

| | |
|--------------|--|
| 授業の形態 | 一斉授業 グループ学習 ペア学習 |
| 主たる教材 | 「英語総合問題集UNITE Stage4」(教研出版), 「リスニング問題集All Ears Vol.3」(美誠社) |
| 副教材 | Vision Quest総合英語(啓林館) スランブル英文法・語法4th Edition(旺文社) |
| 評価の方法 | 定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|-------------|-------|--|
| 到達目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| | | |
|---------------------|-----|---|
| 知識・技能分野の到達目安 | 80% | 「UNITE Stage4」の解答とその考え方のプロセスを理解している 「All Ears vol.3」の英語音声に対し、すべての英文をディクテーションすることができる |
| | 60% | 「UNITE Stage4」の解答とその考え方のプロセスをほぼ理解している 「All Ears vol.3」の英語音声に対し、8割の英文をディクテーションすることができる |

※80%=80点を取るための目安。

| 科 目 | 週 時 数 |
|--------|-------|
| 聖書(設定) | 1 時間 |

| | | |
|-----|--|--|
| 目 標 | 人類の遺産である聖書の基本的知識及び価値観を学び、グローバル社会で公共の精神に生きる力を育てる。 | |
| | 知識 技能 | 歴史的、社会的背景を踏まえて本文を正しく理解する。 2000年の歴史を経ての今日的意義を探究する。 |
| | 思考 判断 表現 | 自分も含めた様々な人々から社会が形成されていることを知り、いかに共生するかを考える。 神の前で人間は有限であるが、同時に有意味である自己肯定感を促す。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | 異なった考えを積極的に捉え、これまでの自分の価値観と対比し生きる糧とする。 仲間と聖書を読み合うことで、全体の共同性を確認する。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|---------|--|---|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・クリュニー修道院 ・スコラ学 ・マリア崇敬 各福音による発展 ・教皇のバビロン捕囚 ・ウイクリフとフス ・東西教会の分裂 ・東方正教会 | <ul style="list-style-type: none"> ・聖書を学ぶ、必要性を知る。 ・伝統の中に多くの人々の犠牲と奉仕があることを知る。 ・3校祖と3L精神を学び、学院生としての自覚を促す。 ・教会の礼拝と、学校の礼拝の違いを知る。 ・イエス・キリストの生涯と、新約聖書の概観を知る。 ・無意識で取り組んでいた日本の「宗教」を理解する。 ・本来あるべき、神との関係性について知る。 ・本来あるべき、隣人との関係性について知る。 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・エラスムス ・ルネサンスとその時代 ・エックハルトとフロレーテ ・宗教改革 ルター ・改革派の体系化 カルヴァンによる | <ul style="list-style-type: none"> ・新約聖書の翻訳と、人文主義的立場を学ぶ。 ・神なき文化から魂の救いを考える。 ・ドイツとオランダの神秘主義思想を知る。 ・塔の体験、95ヶ条の提題を学ぶ。 ・スイスの宗教改革の特質を学ぶ。 |

| | |
|-------|----------------------|
| 授業の形態 | 一斉授業 |
| 主たる教材 | 聖書 |
| 副教材 | なし |
| 評価の方法 | 定期試験、提出物、小テストによる総合評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|----------|-------|--|
| 到達 目標 | ①定期試験 | 範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する |
| | ②小テスト | 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む |

| 科 目 | 週 時 数 |
|-------|-------|
| 3L希望学 | 1 時間 |

| | | |
|-----------------|--|--|
| 目 標 | ESDとキャリア学習を通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、加えて未来を展望して、自らの使命を考える。 | |
| 育 っ たい 力 | 知識 技能 | 世界にある様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。 |
| | 思考 判断 表現 | クラスやグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。 |
| | 主体性 協働性 多様性 | 誰も置き去りにしない社会を作るためには、何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい・目標 |
|--------------|--------|---|
| 1 学 期 | 「課題研究」 | 「SDGs」の達成状況や高校2年時までの「3L希望学」の学習成果、世界情勢などを踏まえて、今後継続して向き合う社会課題を明確にし、その内容を状況を会得した探究のプロセスを用いて明らかにしていく。さらに、その内容を進学に際して明確に表現できる形にまとめる。加えて、課題意識を級友と協働して高めていく。 |
| | 「進路研究」 | オープンキャンパスなどの研究者や学生の方との交流の機会を通して、自らの興味関心、向き合いたい社会課題に照らしてふさわしい学問分野を見定め、その学問分野を修めるのにふさわしい進学先を決定する。また、その思いや経緯を志望理由書に反映させ、2年時に作成した内容を磨く。 |
| 2 学 期 | 「課題研究」 | 「SDGs」の達成状況や高校2年時までの「3L希望学」の学習成果、世界情勢などを踏まえて、今後継続して向き合う社会課題を明確にし、その内容を状況を会得した探究のプロセスを用いて明らかにしていく。さらに、その内容を進学に際して明確に表現できる形にまとめる。加えて、課題意識を級友と協働して高めていく。 |
| | 「進路研究」 | オープンキャンパスなどの研究者や学生の方との交流の機会を通して、自らの興味関心、向き合いたい社会課題に照らしてふさわしい学問分野を見定め、その学問分野を修めるのにふさわしい進学先を決定する。また、その思いや経緯を志望理由書に反映させ、2年時に作成した内容を磨く。 |

| | |
|--------------|--|
| 授業の形態 | 一斉授業 講演 グループ学習 ワークショップ 個人の探究活動 |
| 教科書 | なし |
| 副教材 | なし |
| 評価の方法 | 学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価 |
| 備考 | 特になし |

| | | |
|-------------|-------|------------------------------------|
| 到達目標 | ①定期試験 | なし |
| | ②小テスト | なし |
| | ③提出物 | 期限を守って指示された内容の成果物を提出する |
| | ④準備 | 必要な物品を確実に準備する |
| | ⑤学習態度 | 自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする |